

骨抜き、大杉社会葬

注目を惹いたロシアの記者

大杉栄、伊藤野枝、橘宗一、三名の葬儀は葬儀前の遺骨掠取騒ぎで司会者側では多少氣勢をそがれたが兎に角予定の午後一時から、谷中斉場で主義者、労働運動者約5,600名に警視庁特別高等の私服、池上谷中署長の指揮する駒込、谷中両署官、私服を合せて、会葬者千名に上った。

祭壇には大杉の写真を中央に、右野枝左に宗一少年の写真を安置し「命令服従の犠牲宗一君に捧ぐ」と札を付けた黄菊の花輪三個をかざり、正面に哀悼大杉、野枝、宗一の霊と大書した大白旗と労働旗四五旒が会衆の眼を射り、左側遺族席に茶がかったハットにおなじ色の洋服で、大杉氏実弟勇氏のとなりに、首うなだれた宗一君のお母さん橘あやめ子の痛々しい姿が、会葬の婦人達に新しい涙を与へた。かくて警官の林立する中で、一同式場に入り、司会者岩佐太郎氏は、故人をはふむる挨拶代りに、朝の遺骨騒動から骨抜き葬式を行う巔末を訥々として述べ、二・三度池上署長の注意をくったが、主義者連は感極まると拍手やら怒号を初め、さながら演説会の如き有様となった。次いで、和田久太郎氏外数名の感想やら追悼演説があり、加藤一夫氏外数名も追悼文を朗読し、二・三名は注意を喰って、その都度罵声が交換されたが、噂されたやうに反動団体の襲撃もなく、骨をうづむる代りに萬才を三唱し、賑やかに午後三時解散した。会衆の中には、先日出獄した堺真柄も混り、外国新聞通信員の中に鼻眼鏡をかけた労農ロスター通信東京代表ウオズネセンスキー氏のあったのは甚だしい注意をひいた。

葬儀の記

……遺骨奪はれの記……

去る九月十六日、憲兵司令部内に於て虐殺され

たる大杉栄、伊藤野枝、橘宗一、三君の遺骨は、同二十四日、府下落合火葬場にて茶毘に附し、遺骨となして一時労働運動社に安置なしありたり。然るところ、今回準備やうやく整ひたるを以て左の如く葬儀執行の事に決定せり。

同志、知己諸君の参席を望む。

◇ 日 時 十二月十六日午後一時

◇ 場 所 谷中斉場

◇ 儀 式 無宗教

葬 儀 準 備 委 員

新聞印刷工組合正進会	和 田 栄太郎
日本印刷工組合信友会	水 沼 辰 夫
芝浦労働組合	佐 藤 陽 一
機械技工組合	田 中 貞 吉
同 上	井 上 昭
本芝労働組合有志	高 山 久 蔵
本芝労働組合有志代表	神 田 明 徳
純労働組合有志代表	戸 沢 仁三郎
同 上	俵 次 雄
関東車輛工業組合有志代表	長 倉 宇 吉
同 上	水 上 国 彦
明治電友会	高 橋 徳太郎
瓦斯電気技友会	皆 川 利 吉
工 友 会	薮 徳次郎
サラリーマン同盟	江 川 菊次郎
ステロ社有志代表	坂 口 喜 一
S S 会	渡 辺 公 平
組合運動社	佐 藤 護 郎
自由人社	平 岩 巖
農村運動同盟	望 月 桂
黒 労 社	長 沼 富
朔 風 会	武 良 二
北 風 会	村 木 源二郎
労働運動社	近 藤 憲 二
葬儀事務所	労働運動社

右の通知を全国の各労働団体、思想団体、及び

同志知己諸君に発したのは十二月二日であった。

葬儀の前日から、地方の同志諸君十数名も遙々事務所へ訪ねて来た。各地からの弔文弔電は引きもきらなかった。

所が愈十六日の朝八時頃、皆んなが朝飯にかからうとしてゐた時の事だ。二人の人夫體の男と共に、四十恰好の紋付羽織の男が訪ねて来た。岩佐が応待すると、「福岡県飯塚炭坑・下鳥繁造」の名刺を出し、九州から葬儀に加はらうと思って態々来た者だ、と丁寧に挨拶をした。岩佐も丁寧に謝意を述べてゐた。そこは遺骨の置かれてある部屋だった。やがて其の男を残して隣の一室で皆んなで食事にとりかゝった。

と、紋付羽織は遺骨の前に黙礼してゐたが、急に白布に一包にされてゐた三君の遺骨を左小脇に抱き、右手にピストルを握って「この骨は俺が貰って行く」と怒鳴った。食事をしてゐた近藤がこの声と共に立上って隣室へ駆けつけた時には奴は早くも椽まで飛び出し、遺骨を人夫體の男に渡して、ピストルを突きつけ、自らも後づさに表へ逃げ出した。近藤は直ちにこれを追った。門の所でだ、しかも一間半ほどしか離れない所でだ。奴は立ち止ってピストルを擬した。二人は黙って睨み合った。やがて近藤の声で「撃て」云ふと同時に、弾丸は耳をかすめて板塀を貫いた。近藤は再び「大丈夫、空丸だ、」と怒鳴りながら、和田久と共に追った。野郎は振り返って二度和田に発砲したが、何れも当らなかった。皆んな続いて追った。野郎は又も三四発うった。労働運動社から半丁ばかり離れた電車通りで、和田と近藤が前後から組つき、直ちに皆んなで引き倒した。そこへ駒込署の警官が来て連れ去った。

しかし人夫體の男の持ち去った遺骨は、奴等が用意してゐた自動車に乗せられたので、大勢で追ったのだが、逃して了った。後で聞けば、この骨

泥棒の主犯は大化会の下鳥繁造で葬儀妨害のために大化会の企てた仕事であった。

奴の放ったピストルは勿論実弾であつたんだが誰一人負傷せなかつたのは不幸中の幸であつた。しかし何しろ、大杉君等の遺骨を奪取された事は、僕等の油断からであつた。顛末を述べて深く同志諸君に謝す。

この騒ぎのために、皆んなは一段の緊張と決心とを以て葬儀に臨んだ。そして遺骨のなくなつた事は葬儀をして一層無宗教ならしめた。十一時出発、三君の弔旗写真を護つた一隊は、列をなして谷中斎場に向つた。

午後一時、参会者約7百、斎場の内外に溢れ祭壇に掲げられた三名の写真のまわりは、二十数旆の団体旗と紅白の花輪をもって飾られてゐる。血走るばかりに緊張しきつた同志の眉宇には侵すべからざる或ものがある。

司会者岩佐作太郎、壇上に立って開会を宣し、先づ遺骨を奪はれた顛末を述べて会衆諸君に謝し、大杉等虐殺事件の真相を曝露し、更に声を励まして、一個の行動よく百千の議論に優る旨を述べ、滔々四十分に亘り、全身の熱をこめて同志に警告し覚悟を促した。

次いで和田久太郎、別稿三君の略伝を読み続いて葬儀準備団体の各代表者、黒煙会、農民運動社、関東機械工組合、ネストル社、社会春秋社、地方同志代表、友人総代、其他、都合三十幾名が、或は熱烈なる弔辞を読み、或は熱心なる追悼演説をやつた。会衆は心からの拍手声援を以て之を迎え送った。其の間に京都印刷工組合、朝鮮無産青年会、朝鮮労働聯盟、東京朝鮮労働組合、朝鮮労働大会準備会、広島黒陽会、大阪の自由民協社、呉の黒潮会、神戸の極東平民社、新潟のレッド・グループ、其他及び各地同志からの弔文、弔電を読みあげて氣勢を添えた。尚遠くフランスの同志

の送って呉れた弔文は次の如くであった。

今日、我々は、我々の同志大杉栄、伊藤野枝、若きムネカズ、タチバナの恐るべき虐殺を知った。

世界を越へて、我々は憤慨に耐へざる抗議を送り、且つ我々は叫ぶ。

勇氣ノ 希望ノ

北部フランス・アナキスト同盟。

午後四時、司会者岩佐、閉会を告げ、三君の萬才を高唱して式を閉じた。が暫らくは祭壇を囲んで会旗をひらめかせ弔歌、革命歌、拍手、足踏みは場をゆるがせ、新聞社写真班のマグネシウムの爆音はやまなかった。

やがて途中示威行列をなして労働社へ引き上げたのは薄暮近い頃であった。

(大正十三年三月一日発行第四次労働運動大杉栄・伊藤野枝・追悼号58.59.60Pから)

序に三君の「遺骨事件」の其後の経過を報告して置く。十二月二十幾日に至って、大化会の岩田が遺骨を警視庁に持って出た事は既に諸君が新聞で御存じの通りである。で、それから三・四日経って警視庁からとりに来いとこの事であった。社の村木が出かけた。村木の行ったのは、丁度十二月二十七日のおひる頃だ。虎の門某重大事件で警視庁は大変な騒ぎだ。骨を渡すどころじゃない。続いての政変と、またしても重大事件で大分ごたついているものと見へ、今だに通知がないから其のままになっいる。大杉達も、余程の因果に生れたものか、骨になってからも、いつまでも検事局や警視庁にまごついてゐる。

労働運動「大杉栄、伊藤野枝、追悼号」編輯後記……から。

大正12年12月12日

静岡民友新聞 記事より

檀徒でなく宗教否定の大杉の埋骨は断然拒絶する。

まだ申込はないが 鉄舟寺住職 伊藤 月庵 師談

革命児大杉栄の遺骨に対し世評は早くも其墓地が、安部郡不二見村鉄舟寺の墓地と決定せるものと喧伝され加え最近之れが為に、同地及び清水町の在郷軍人分会や青年団が、猛烈な反対運動を開始せんとするさえ伝えられたが、右は事実を精査の結果全然跡方もなき事と判明した。鉄舟寺を訪へば住職伊藤月庵氏は語る。「実は先日来新聞紙に依って大杉の遺骨が鉄舟寺に埋葬されるとの世評がある事を知りましたが此寺としても、住職の私としまでも、そんな事は全然しりません、第一大杉栄の身内からも何も通知はありません、従って在郷軍人会や青年団が反対運動を起すやうな理由がないのです。若し今度大杉方から栄氏の

遺骨を埋葬して呉れと申込まれても、それは断然拒絶します。何故ならば栄氏は無宗教者であり檀徒でもないのです。

檀徒でもなく、且つ宗教否定論者である人を勝手に埋葬する事は宗教制度がこれを許しません。既に清水町五ヶ町村仏教連合会からも萬一埋葬の申込みがあっても断然拒然するやうに申込んで居ります。右の様な理由で大杉栄の骨は鉄舟寺には埋葬されぬ事を断言して置きます」云云。尚ほ世評を齎して前記六ヶ町村仏教聯合会理事実相寺住職中村弁康師を訪へば、「吾々も宗教者の立脚地からして黙過出来ず三十八名の会員が協議の上、事実の真偽によらず一応鉄舟寺住職に注意を与え

ました、理由は風光明媚で人情敦厚な当地へ該主義者を葬る事は風教上の方面から見ても大切な問題であるのみならず、彼の主義は、仏教を認めず靈魂を否定して居るから同寺へ葬る事は不合理であるを知ったからです」云云。次いで反対運動を

企てたとの噂のある清水町在郷軍人分会の会長土屋保爾氏を訪へば「大杉栄の鉄舟寺埋葬に對し反対運動を協議した等は全然無根ですし、大杉の骨を同寺へ葬らぬ事も住職から聞いて居ります故に、そんな必要もないのです」云云。

大正十二年十二月二十二日

静岡民友新聞 記事から

大杉栄氏の遺骨埋葬は今度は真福寺 檀徒から苦情!!

☆ 社会主義者の骨を埋められては主義の種を蒔くと厳談☆

住 職 言明を取消す!!

安部郡清水町在鉄舟寺で見放された大杉栄氏の墓は庵原郡袖師村西久保真福寺住職千葉鉄心師が承諾して、呪われた栄氏の骨も同寺に葬られんと推測されて居た処、早くも之を耳にした同寺の檀徒の大部分は「社会主義者の骨を埋められては、此平和な地に主義の種を蒔くやうな事になるし、世間からも檀家の中に主義者が居るんではないかと誤解される事になり、我々の実生活の上にも直

接影響を及ぼすから、若し先方から申込まれても断然拒絶してもらひたい」と、協議して数名の檀徒が十九日真福寺を訪問し千葉住職に厳談に及んだ為、住職も檀家には反抗も出来ず、過日の言明を取消し「今后大杉方から申込まれても絶対にお断りします」と意を翻したので、大杉氏の墓も亦一頓座を来してしまった。

大正13年5月26日

静岡尺友新聞 記事より

大杉氏夫妻と宗一の三つの亡き霊を共同墓地で密葬

静岡市鷹匠町柴田勝蔵氏宅から!!

甘粕事件として全邦土の人々に大きな衝動を投げ、惨たらしい形體を横へた社会主義者大杉栄氏夫妻と無法にも毒手に敢なく花の蕾を散らされた橘宗一を中心とした遺骨奪取事件を始め種々な渦紋を揚げた三つの魂一昨年9月以来8月の永い時を経た昨25日3人の密葬は強風吹き荒ぶ裡に、静岡市共同墓地で営まれた。

此の日早朝から静岡市鷹匠町三丁目柴田勝蔵氏の宅は何時になく物寂しい空気に包まれ前夜大杉

夫妻の遺骨を携へて来た氏の実弟勇、進両氏は一切の面会を避け、更に寺町新善行寺の奥深き安置所からは痛ましい宗一の遺骨が同家に移され、更に上海で客死した実弟伸氏の霊も共に階上の一室に安置されてある、ゆらゆらと上昇する香煙に今更に在りし日の面影をまざまざと眼のあたり見る心とする。

当の勝蔵氏は「今日午后四時か五時頃葬儀を致す筈ですが今迄にもあんないろいろな事件があり

ましたので極々秘密にして極めて僅の人達で営むことにしました。栄さんの同志ですか？モウすっかり秘密にして居りましたので一人も参らないやうです。それでも警察の方へは一応話しましたので昨夜（廿四日）は高等課刑事の方が二名（臼井部長、富田刑事が見えられて警戒して下さいましたが「静岡には不穏な主義などはないから間違ひは万々無からう」との話でした。又此の葬儀に際しても遺骨を埋葬するのを葬儀間際になって手続きをした位です——。あやめが急に渡米する事になったのも排日案が随分喧しく叫ばれて来ましたし又夫の方でも急いで渡米を手紙で申越しましたからです」「出発の日ですか？来る三十日に横浜出帆のアラバ丸です」と語った。

いと寂しく 移霊の式 読経も幽かに

渡米に就ていろいろな打合せの為横浜に赴いていたあやめは同日葬儀を目の前に控え午後零時五十三分静岡駅着下り三等特急列車で帰着、腕車で勝蔵氏方に馳せつけた。心持ち蒼い顔にも流石に憂いの色が漂ひ、地味な洋装のまゝ慌しく奥深く身を秘めてしまった。

午後三時過ぎ宗一の遺骨を安置した寺町四丁目新善光寺住職杉村一然師の読経が幽に聞え、邸内は寂として一つの声もない。時々隣家熊谷常次郎氏及び氏の親戚に当る宇佐美秀二氏兩人から贈った黒布の絡る花輪が贈られ最後の霊を慰むべく直ちに遺骨の前に手向けられる。対外的に其名を馳せた栄氏夫妻、恨みつきぬ痛ましい宗一等の移霊の式は斯くまで寂しく行はれやうとは——聞けば栄氏の墓碑は郷里福岡に、宗一は愛知県の片田舎に各々建てられるとの事である。更に新善光寺では「宗一さんだけの遺骨はお預り致しましたが、戒名もなく過ぎて居りました。お可愛想な事です。只私方ではお預りしたのみです——と余りにも深く語るを好まない様子であった。

吹く烈風中 遺骨埋葬

二坪程の丘に！！

柴田家の六畳座敷に南向きに安置された栄、野枝、宗一の三名の遺骨を一纏めにした骨箱と之れを左にして栄氏の実弟伸氏の遺骨とが相並べて安置され、其前には栄、野枝、宗一三名の最近の肖像に、僅かばかりのパナナと西洋菓子の一皿が置かれてあり如何にも物淋しい部屋の中には香の煙が満ちみちて居るのみで、他には喪章の附いた花輪が淋しく立って居るのみであった、葬儀は午後三時半から始められ新善光寺僧侶の読経が終って一同は臼井、富田、金原の三刑事に衛られ、清水山麓の共同墓地に向った。

宗一の母橘あやめは紺サージの地味な洋服姿で栄、野枝、宗一三名を、伸氏の遺骨は栄氏の実弟勇、進兩氏の手で護られて腕車で墓地に向った。会葬者は栄兄弟、柴田一家と他に親戚の熊谷、宇佐美兩氏の十二名であった。

栄氏の遺骨は小高い丘の南部に面した約二坪ばかりの所に埋められたのであるが、穴堀りが穴を堀るサベルの音をあやめは堪えられないやうな面持でちっと聞いてゐたが柴田氏妻女菊子（あやめの実姉）に勧めらるるまゝに兄等と愛児宗一と野枝の遺骨の上に手もて土を落し祈りを捧げた。折柄吹きしきる烈風に雨雲が空一杯に拡がり墓地は益々物淋しさを増して来た。斯くて薄命の栄と夫人野枝並に敢果ない最後を共にした橘宗一は永へに此共同墓地に眠りを続けるのである。

墓地には「大杉栄之墓」「大杉伸之墓」と墨痕鮮に書かれた新しい墓標が建っているのみである。

野枝の墓は故郷の福岡に、尚ほ宗一の墓は名古屋に建てられるという事である。

最 終 御 報 告

昭和49年5月以降、宗一碑のカンパをはじめましてから、もう三年近い年月を経過致しました。

その間別項の通り約400名の方々から御芳志を頂き、その合計金額¥1,047,547-となり建立委員会ニュースの発行、資料の発掘・建碑・墓前祭、記念集会の挙行と不慣れの為、不行届の点も多く、色々と御批判、御不満もある事とは存じますが、皆様の御支援を得て、無事今回の目的を成就する事が出来ました。

こゝに、その会計報告と若干の資料を添附し御報告申し上げます。

尚、「墓誌建立委員会ニュース」は本号をもって終刊号とし、建立委員会は解散させて頂くことと致します。

御支援、御協力に深謝申し上げます。

昭和52年3月 日

大杉栄等の墓誌建立委員会

静岡県富士市伝法上中町2719

富士地区一般産業合同労働組合事務局内

荒畑寒村 勝又武一

近藤真柄 海野福寿

瀬戸内晴美 杉山金夫

大塚昇 尾焼津弁次

遠藤斌 白鳥良香

向井孝 芳村和勇

富士地区一般産業合同労働組合

添附の資料は、大杉等の虐殺される前日の9月15日付の野枝さんから、静岡の柴田菊さんにあてた、大杉の実弟勇さん一家と宗一少年の安否を気づかう問い合わせの手紙と大正12年12月9日付の報知新聞所載の甘粕等の公判判決文の二点を、大杉の二女菅沼幸子さんの御好意でそのコピーを頂く事が出来ましたので、それを集載、剖検鑑定書は、当時その剖検を担当された田中軍医が作成されたものでその鑑定書の写しを田中軍医夫人が大切に保存して居られたのを、田中軍医の元部下であった、大森在住の安田耕一軍医がその存在を世に公表されたので、建立委員会で、同医師にお願いして、その全文のコピーを拝受する事が出来ましたので、これも集載させて頂きました。表紙の、あゝ大杉よの歌は、名古屋の藤本さん等が発行して居られる「人権のひろば」105、106号7頁所載のものを転用させて頂きました。末尾の大正13年5月26日の静岡民友新聞の記事は、海野福寿さんの御好意で入手出来たもの、その他の新聞記事は芳村和勇君の努力で集めたものです。それに第4次労働運動の「大杉栄、伊藤野枝追悼号」から「遺骨奪はれの記」を入れて、大体当時の事情、社会風潮等を知って頂けると思っ
て編輯しました。記念集会の録音及賛助者名簿は、費用の関係で残念ながら印刷出来なくなりました。おゆるし下さい。

(事務局 福田武寿)

会 計 決 算 報 告 書

金 額 別 入 金 状 況			月 別 入 ・ 出 金 状 況		
寄付金額	口数	小 計	年 月	入 金 高	支 払 金 額
200,000円	1 口	200,000円	49. 8	22,850	0
30,000円	1 口	30,000	49. 9	10,500	0
20,000円	3 口	60,000	50. 3	3,500	0
10,000円	26 口	260,000	" 4	1,000	0
8,000円	1 口	8,000	" 7	31,000	0
6,000円	1 口	6,000	51. 6	39,100	89,690
5,000円	41 口	205,000	" 7	93,000	21,590
4,000円	1 口	4,000	" 8	250,000	90,410
3,000円	26 口	78,000	" 9	376,000	306,072
2,500円	3 口	7,500	" 10	4,400	68,890
2,400円	1 口	2,400	" 11	0	56,020
2,000円	35 口	70,000	" 12	211,087	240,298
1,500円	2 口	3,000	52. 1	1,000	1,660
1,000円	67 口	67,000	52. 2	0	3,600
500円	30 口	15,000	利 子 計	2,362	
300円	1 口	300	52. 3	(利子)1,748	169,317
200円	84 口	16,800	合 計	1,047,547	1,047,547
187円	1 口	187			
100円	102 口	10,200			
50円	1 口	50			
預 金 利 子		4,110			
総 計	428	1,047,547円			

使 途 別 出 金 状 況		
墓	碑	240,000円
墓	前 祭	15,000円
記 念 集 会		91,710円
接 待 費	宿 泊 費	151,542円
	昼 食 費	95,658円
	交 通 費	41,570円
一 般 謝 礼		16,000円
写 真 代		37,800円
カセット・テープ		4,080円
会 議 費		25,460円
事 務 用 品 費		20,097円
印 刷 費		189,870円
通 信 費		118,760円
合 計		1,047,547円